

# 大学女子バスケットボール競技における速攻時に発生する傷害の原因に関する調査

遠藤 有望 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 小松 猛

キーワード：バスケットボール，速攻，傷害

## 1. 緒言

バスケットボールの魅力の 1 つに攻守の入れ替わりが早いことが挙げられる。選手たちはその早い展開の中で、ダッシュ、ストップ、ターン、ジャンプを頻繁に繰り返す。そのことにより、下肢への傷害が全体の約 73%などの報告がされている。また練習時と試合時を比較すると試合時の方が約 12 倍も傷害が発生しやすいことも報告されている。

しかし、これまでの傷害に関する研究では、傷害全体に焦点を当てたものが多く、ある特定の状況にポイントを絞り研究しているものは少ない。実際の試合の状況から傷害が発生する要因を明らかにすることは、今後バスケットボール競技全体として傷害の減少に繋がると考える。そこで、本調査では大学女子バスケットボール選手の試合中の速攻時に発生する傷害の原因を調査し、今後、指導者や選手自身の傷害に対する意識の向上、予防に役立たせることを目的とする。

## 2. 研究方法

本調査の調査対象は、平成 27 年度関西女子学生バスケットボール 2 部リーグ戦での本大学 vs 他大学の全 8 試合を対象とした。

調査方法は、収録したビデオカメラの映像を再生しながら調査用紙に記入する方法である。調査項目は「シュートを打った本数」「ファストブレイクの回数」「ファストブレイクの成功回数」「セカンダリーブレイクの回数」「セカンダリーブレイクの成功回数」「転倒した回数」「シュート時の転倒回数」「シュート時の接触回数」「速攻時の接触回数」の 9 つである。

## 3. 結果と考察

本調査の結果、速攻時には 29.4%の確率で接

触または転倒が起こっていることが分かった。速攻は試合の主導権を握るプレーであるため、オフェンス、ディフェンスの両者ともに無理な接触が起こると考えられる。

今回の調査は、ビデオ分析と文献による調査であったため、接触や転倒が起こっている原因の検討については、あくまで推論の域を超えない。そのため、今後の調査では、接触や転倒に対する選手の意識調査や選手個人のボディバランスなども調査していき、より詳細に速攻の要因を明らかにしていきたい。

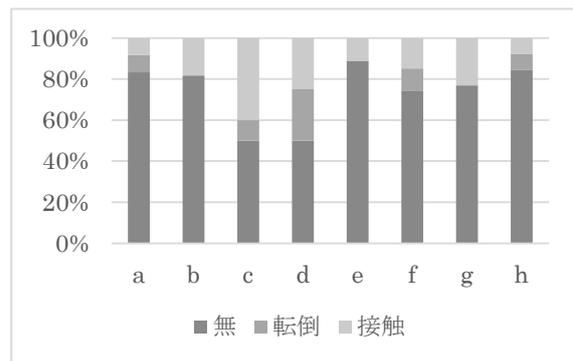


図 1 全 8 試合での転倒と接触の割合

## 4. まとめ

本調査では、大学女子バスケットボール選手の試合中の速攻時の傷害発生で最も注意しなければいけないプレー中の状況としては、不意な接触、それによるバランスの崩れであることが考えられた。

### 引用・参考文献

八板昭仁 (2005) バスケットボールゲームにおける速攻の要因について 九州女子大学紀要 自然科学編 41 (4) 1-9

佐藤かおる (1992) バスケットボールにおける傷害の縦断的分析 日本体育学会大会号 (43B) 691